

令和5年度



令和6年3月

北海道広尾町

□目次

事業目的	1
事業計画	2
実施報告	3
多様な新規就農を支援する体制の構築	
1 シーサイドハウス施設管理事業	4
多様な移住体験の受入体制構築	
1 生き生きプロジェクトによるワーキングホリデーの受入	5
子育て世代支援事業	
1 出産祝い金支給事業	7
サンタランドの魅力向上プロジェクト	
1 イルミネーション設置・購入事業	8
2 サンタランド点灯式プロモーション	9
子ども農山漁村交流から始める「まち・ひとづくり」事業	
1 農山漁村ホームステイ事業	11
2 事後交流と学校給食への農産物・海産物提供事業	12
(1) 荒川区交流都市フェア	
(2) 学校給食への食材提供	
日高東部3町との広域事業	
1 広域連携映画製作準備活動	14
事業への協賛	15

事業目的

本町は昭和 40(1965)年に総人口が 13,598 人となりピークを迎えたが、1970 年代の高度経済成長期に 2,000 人を超える人口が減少し、その後、人口が維持される時期もあったが、1980 年代後半に人口が減少し始めてから、一貫して人口減少が続いている。直近の人口は令和 2(2020)年の 6,387 人(令和 2 年国勢調査)であり、ピーク時から 50 年で人口は半減した。ここ 5 年間の人口減少率は約 10.8%となっており、国及び北海道と比較して、かなり早い時期から人口減少が進行している。国立社会保障・人口問題研究所によると、令和 27 年(2045)年には 3,394 人、令和 47(2065)年には 1,770 人にまで減少すると見込まれている。

人口減少の要因として、本町の出生数は、2001 年から減少傾向にあり、2000 年の 85 人から 2022 年は 22 人となっている。

社会増減は、毎年転出者が転入者を上回っており、進学や就職を機会とした若年層の転出超過が原因と考えられる。基幹産業のひとつである漁業では、深刻な担い手不足と高齢化が進み、漁業所得が低下するなど、地域経済の衰退を招くおそれがある。

このように、人口減少が地域経済や住民生活に与える影響は大きく、この課題に緊急に対応するため、以下の事項を本計画の基本目標に掲げ、産業を活性化し雇用を創出することにより社会減を抑制するとともに、町内で働く若い世代が結婚し、子どもを産み育てる環境を整えることにより、自然減を抑制する。また、まちの魅力を高め、町外からの移住・定住を促進するとともに、交流人口や関係人口の拡大を図り、町民も町外からやってくる人も共に安心して楽しく過ごし、暮らすことのできる地域社会の創出をめざす。

基本目標 1【雇用対策】

海と大地に根ざした活気あふれる産業の育成と新たな雇用の創出

基本目標 2【移住定住】

海と山が溶け込むまち・広尾はあなたを待っています

基本目標 3【少子化対策】

サンタのまちで子どもを産み育てる環境の充実と健やかな成長を支援

基本目標 4【ひとづくりと地域連携】

まちを知り、まちに関わる人を育て、まちの魅力を発信する

事業計画

基本目標1【雇用対策】

海と大地に根ざした活気あふれる産業の育成と新たな雇用の創出事業

漁業・農林業の新たな担い手の確保、新規就業者支援施策の推進、産業分野におけるICT、AIなど未来技術の導入に向けた検討、重要港湾を管理する強みを生かした港湾関連企業の誘致や定期航路の開設など港の利活用の促進、豊かな食資源・森林資源の活用による地域ブランドの確立や第6次産業の推進による高付加価値化、食文化の伝承など、本町の強みである「海と山の資源」を生かすことにより、各産業に活力を与え、各分野において新たな「しごと」と「産業」を創出する。

基本目標2【移住定住】

海と山が溶け込むまち・広尾はあなたを待ってます事業

海や山など豊かな自然に囲まれた暮らしを満喫できる魅力をアピールし、シーズンステイ志向者を対象とした受入体制の構築、短期労働と移住体験を組み合わせた体験メニューの創設、ふるさと納税やクラウドファンディングなど企業や都市部から資金面での支援を得ることができる魅力あるまちづくり、地域交通の利便性の確保、町民・移住者の双方が居場所と役割を持ち、安心して楽しく暮らせる地域社会の創出など、広尾ファンを全国に増やし、自然と共生した快適な暮らしをイメージさせ、移住定住の促進を図る。

基本目標3【少子化対策】

サンタのまちで子どもを産み育てる環境の充実と健やかな成長を支援事業

保育園や子育て支援センターを拠点とした子育て支援の充実、子どもを安心して産み育てる環境の整備、子育て中の保護者の負担軽減など、子どもの健やかな成長をまちぐるみで支え合いながら少子化の流れを緩和する事業のほか、広尾高校と地元企業との結びつきの強化、都市部との学習環境・各種活動格差を是正し、希望の大学への進学率を高めるための施策、部活動への支援及び専門指導者の招聘、広尾ならではの新たな部活動・文化活動の創設支援、防災教育の充実、広尾高校町民応援団の設立など、広尾高校を地域コミュニティの中核的存在として地域ぐるみで応援する体制を整備する。

基本目標4【ひとづくりと地域連携】

まちを知り、まちに関わる人を育て、まちの魅力を発信する事業

まちづくり町民みらい会議の開催、まちを学ぶ講座の開設、広尾町検定の導入など、子どもから高齢者までがまちの現状を学び、将来のまちのあるべき姿について主体的に考えることにより、まちの未来を切り開く人材を育成する事業のほか、サンタランドのまちづくり、豊かな自然を生かした体験型観光の充実、多彩な地域間交流による関係人口の拡大やまちの賑わい創出など、まちの観光資源に磨きをかけ、町民の力を活かしてその魅力を最大限にアピールし、交流人口や関係人口の創出・拡大を図る。

》 実 施 報 告

基本目標1【雇用対策】

海と大地に根ざした活気あふれる産業の育成と新たな雇用の創出

○第一次産業及び商工業の活性化につながる雇用・起業支援

実施事業1：多様な新規就農を支援する体制の構築

基本目標2【移住定住】

海と山が溶け込むまち・広尾はあなたを待っています

○誰もが居場所と役割を持ち、安心して楽しく暮らせる地域社会の創出

実施事業2：多様な移住体験の受入体制構築

基本目標3【少子化対策】

サンタのまちで子どもを産み育てる環境の充実と健やかな成長を支援

○子育て環境を充実させ、高校生までの子どもを地域ぐるみで見守る核をつくる

実施事業3：出産祝い金支給事業

基本目標4【ひとづくりと地域連携】

まちを知り、まちに関わる人を育て、まちの魅力を発信する事業

○サンタのまちの新しい観光産業の創出と情報発信の強化

実施事業4：サンタランドの魅力向上プロジェクト

○多様な地域交流による関係人口拡大とまちの賑わい創出事業

実施事業5：子ども農山漁村交流から始める「まち・ひとづくり」事業

実施事業6：日高東部3町との広域事業

実施事業 1

多様な新規就農を支援する体制の構築

1. シーサイドハウス施設管理事業

■事業目的

農林業の体験実習等の場を整備し、次代を担う後継者の育成を促進するとともに、各種会合、研修、交流のほかに活用し、農山村の活性化を図る。

■事業内容

当該施設の利用時の管理委託を行うことで利用者の利便性が向上し、農林業の振興や担い手の人材育成につながった。

■事業の成果

＜令和5年度施設利用者数＞

総利用者数：159人

総宿泊者数：79人

宿泊実日数計：429日（宿泊人数×宿泊日数）



■今後（令和6年度以降）の展望

施設運営の委託を行うことで、農業実習生やインターン利用者の宿泊拠点として活用できるよう事業を継続していく。

■収支決算

事業費	事業費の財源内訳			
	企業版ふるさと納税	個人版ふるさと納税	その他	一般財源
1,564,860 円	1,000,000 円			564,860 円

実施事業2

多様な移住体験の受入体制構築

1. 活き生きプロジェクトによるワーキングホリデーの受入

■事業目的

広尾町では人口減少や少子高齢化の加速などにより、人を都市部などからどう呼び込むかが、今後のまちづくりの重要なポイントとなっている。

この状況を踏まえ、都市部の大学生などが、実際に広尾町の一次産業等に従事し地域と深く関わることで、まちや仕事に興味・愛着を持ってもらい、広尾町を「若者たちが帰ってきたい魅力ある地域」とすることで、地域応援団の形成や将来的な移住、二地域居住につなげることをめざす、「ふるさとワーキングホリデー事業」を令和3年度に開始した。若者（外部の力）を受け入れ交流することで、地域住民の意識変化や普段気づかなかったまちの資源掘り起こしを図る。

■事業内容

都市部の若者が一定期間地方に滞在し、町内の事業所で働きながら第一次産業を体験し、地方のくらしを体感、住民との交流を深め、将来的な地方への移住・定住への関心を高める。



■事業の成果

令和5年度はコロナが5類に移行したこともあり、9月から11月にかけて5名の方を受け入れることができた。酪農ファームや水産加工会社が経営しているカフェで働きながら、町内の漁師と一緒に漁業を体験し、農家で酪農作業体験をするなど、第一次産業の体験を行った。また、町内の神輿祭りに参加していただくなど、地元行事にも参加することで、住民との関係を深めることができた。参加者からは、各事業所の協力もあり、滞在中のワーク（仕事）とホリデー（休日）について総じて高い評価をいただいた。



■今後（令和6年度以降）の展望

ワーホリ参加以降も広尾町（地域）と参加者との関係を継続できるよう、引き続き、仕組みづくりやきっかけづくりを行っていく。

また、受入に当たっては、体験事業等を含め平日・休日を問わないきめ細やかなサポートが必要なことから、地域おこし協力隊の活動分野を活かした受入コーディネートなど、参加者の満足度と受入体制を両立した、持続可能な運営手法を構築できるよう検討を進めていく。

■収支決算

事業費	事業費の財源内訳			
	企業版ふるさと納税	個人版ふるさと納税	その他	一般財源
545,585 円	200,000 円			345,585 円

実施事業 3

子育て世代支援事業

1. 出産祝い金支給事業

■事業目的

子どもの誕生を祝うとともに、子どもが出生した家庭に出産祝い金を支給することにより、活力あるまちづくりを目的とする。

■事業内容

児童1人につき、次のとおり祝い金を支給

- ・第1子 5万円
- ・第2子 5万円
- ・第3子以降 10万円

■事業の成果

子育て世代の経済的負担を軽減し、安心して子どもを産み育てられるよう、子育て家庭の支援を図った。

令和5年度支給実績

- ・支給対象児童数 17人
- ・総支給額 1,000,000円

■今後（令和6年度以降）の展望

祝い金を支給することで、子育て世帯を応援し、次代を担う若者の定住化の促進が図られるよう、事業を継続する。



■収支決算

事業費	事業費の財源内訳			
	企業版ふるさと納税	個人版ふるさと納税	その他	一般財源
1,000,000円	600,000円			400,000円

実施事業 4

サンタランドの魅力向上プロジェクト

■事業概要

既存のサンタランド事業を継続し、内容を充実させて発信力の強化を図る。話題性のある取組を新たに企画し、まちぐるみで取り組むことにより、サンタランドの魅力や精神、イメージを町内外に PR するとともに、写真映えするシンボルスポットを整備するなど、中高生・若者の興味を惹くような取組を織り交ぜ、サンタランドの魅力をさらに向上させる。

1. イルミネーション設置・購入事業

■事業目的

例年 10 月下旬からクリスマス時期に実施しているサンタランドイルミネーションにおいて、イルミネーション灯具の設置管理を専門事業所に委託する事で安全かつ適切に管理する。また設置するイルミネーションは LED のものを新規に購入し、消費電力の削減に努める。イルミネーションの設置・購入を継続することにより、冬期のサンタランドのシンボルとして大丸山森林公園への集客を増やすことで交流人口の増加につなげる。

■事業内容

○イルミネーション設置管理委託業務（業務期間 R5.7.7～R6.2.29）

大丸山森林公園内にあるサンタの家、サンタの部屋、サンタ工房、あずまや、太鼓橋、ブーツ型ゲート、公園内街路樹へのイルミネーション装飾。またサンタの家周辺ゾーンに円錐型イルミネーションを設置した。

○イルミネーション購入業務（業務期間 R5.7.28～R5.9.30）

LED イルミネーション（100 球タイプ）及びサンタロード用 LED モチーフ（結晶型）を購入した。（白 50 本、青 50 本、ピンク 50 本、シャンパンゴールド 50 本、モチーフ 10 基）



イルミネーション全体（ツリー点灯式の様子）



サンタの家前広場イルミネーション

■事業の成果

イルミネーションの設置・購入を継続したことにより、過去最高の来場者数を記録し、冬期のサンタランドのシンボルとして大丸山森林公園への集客を増やすことにつながった。

■今後（令和6年度以降）の展望

冬季以外の期間もイルミネーションを点灯することにより、大丸山森林公園をサンタランドのシンボルとして地域住民や観光客に定着させる。

■収支決算

事業費	事業費の財源内訳			
	企業版ふるさと納税	個人版ふるさと納税	その他	一般財源
4,537,830 円	450,000 円			4,087,830 円

2. サンタランド点灯式プロモーション

■事業目的

サンタランド点灯式を集客イベントとして開催、また同時に点灯式の模様をオンライン動画配信することでサンタランドの魅力を全世界に発信する。

■事業内容

- ・ Youtube 用動画制作（オープニング動画作成、当日生配信及び編集）
- ・ クリスマス市開催
- ・ アンサンブルグループ「奏楽（そら）」演奏
- ・ 広尾サンタランドジャズスクール演奏
- ・ 花火打ち上げ
- ・ 来場した児童へプレゼント配付



点灯したウッドイルミネーション



イルミネーションで装飾したサンタの部屋

■事業の成果

サンタランド点灯式には、広尾町内外問わず多くの来場者が訪れ、サンタランドの魅力を直に伝えることができた。また、サンタランド点灯式をオンライン動画配信することでサンタランドの魅力を全世界に発信でき、その後の広尾町及び大丸山森林公園への来客数の増加につながった。

■今後（令和6年度以降）の展望

サンタランド点灯式を会場イベントとして開催することで広尾町内外の来場者数を増やしていき、並行してサンタランド事業の認知を広めるため、インターネットでのコンテンツについても有効に活用していく。

■収支決算

事業費	事業費の財源内訳			
	企業版ふるさと納税	個人版ふるさと納税	その他	一般財源
550,000 円	550,000 円			

実施事実施事業5

子ども農山漁村交流から始める「まち・ひとづくり」事業

■事業概要

ホームステイをはじめとした子ども農山漁村交流事業を入り口として都市部との交流を行い、関係人口の創出・拡大や将来的な移住・定住の促進につなげることを目的として実施。

本町においては、平成 27 年に総務省から「子ども農山漁村交流による地域活性化モデル事業」に採択され同事業を開始、平成 28 年には地方創生加速化交付金を活用し漁村ホームステイとその関連事業に取り組んだ。平成 29 年からは「企業版ふるさと納税制度」に係る地域再生計画の認定を受け、企業からの寄附金等を財源とした持続的な運営体制の構築を図っている。

1. 農山漁村ホームステイ事業

■事業目的

広尾町ホームステイ受入協議会と町が協働し、東京都内の小学 5 年生を 2 泊 3 日で受け入れることにより、食事や歓談での家族のようなふれあいや漁業・農業体験など、ありのままの農山漁村生活を通して子どもたちの力強い成長を支えとともに、食や生産現場に対する関心を抱いてもらう。また、本町の漁業者や農業者が受け入れを通して地域資源の価値や魅力を再認識することで、産業振興や地域活性化につなげることを目指す。

■事業内容

東京都荒川区立尾久西小学校の 5 年生を広尾町ホームステイ受入協議会の漁家・農家が受け入れを行った。各受け入れ先では朝から昆布漁体験や酪農作業の体験など、農山漁村ならではの体験を行った。



■今後（令和 6 年度以降）の展望

令和 6 年度のホームステイ受入に向けて体制を整え、事業実施の準備を進めていく。

2. 事後交流と学校給食への農産物・海産物提供事業

■事業目的

農山漁村ホームステイ実施後、ホストファミリーの漁家・農家が受け入れた小学校の学校行事に参加し、子どもたちやその保護者とふれあい、農山漁村ホームステイの意義を伝えることで、交流の深化を図る。また、受け入れた小学校の学校給食に本町の海産物や農産物を提供することで、食や生産現場に対する関心の掘り起しや広尾町産食材の宣伝を図る。

■事業内容

(1) 荒川区交流都市フェア

農山漁村ホームステイで育まれた絆とつながりを生かし、首都圏に向けて本町を宣伝する取組として、区が主催する「荒川区交流都市フェア」に参加した。日暮里駅前での特産品販売を行い、当事業のPRを受入家庭と一緒にに行った。

[荒川区交流都市フェア]

実施期間：令和5年11月12日（日）



交流都市フェアでの様子

(2) 学校給食への食材提供

農山漁村ホームステイで交流のある荒川区立尾久西小学校を始め、区内の小・中学校を対象に、学校給食へ広尾町産食材を提供した。

[尾久西小学校]

尾久西小学校では、「北海道広尾町と連携した食育推進給食」を3回実施した。

○11月 7日 昆布・秋鮭・にんじん・じゃがいも・玉ねぎ

「鮭の柚庵焼き・ごはん・ごまおひたし・かぼちゃのだんご汁・牛乳」

○11月 13日 秋鮭・昆布・じゃがいも・牛乳・にんじん・玉ねぎ・かぼちゃ

「サーモンピラフ・秋野菜ポトフ・かぼちゃのプリン・牛乳」

○11月28日 ししゃも・昆布・牛乳・にんじん・玉ねぎ

「ごはん・昆布の佃煮・鶏肉とじゃがいものうま煮・みそ汁・牛乳」



尾久西小学校で提供された給食

■事業の成果

学校の協力もあり、広尾町産の海産物・農産物の魅力を児童・生徒たちに伝えることができた。また、交流を継続することで、荒川区全域に広尾町をPRすることができ、他の小・中学校にも町産食材の販路を拡大することができた。

■今後（令和6年度以降）の展望

本事業を継続することで都市部との一層の交流促進を図るほか、食や生産現場に対する関心の掘り起しや広尾町産食材の宣伝・販路拡大につなげる。また、事業の運営に不可欠な財源の確保について、企業版ふるさと納税及び個人版ふるさと納税を活用することで、持続的な運営体制の構築に取り組む。

■収支決算

事業費	事業費の財源内訳			
	企業版ふるさと納税	個人版ふるさと納税	その他	一般財源
5,402,155 円	3,800,000 円	1,582,155 円	20,000 円	

※その他は一般指定寄附

実施事業 6

日高東部3町との広域事業

■事業概要

えりも町・浦河町・様似町の日高東部3町と連携した映画作成事業で、浦河町出身の田中光敏監督を中心に、2026年の全国劇場公開に向け準備を進めている。

○広域連携映画製作準備活動

■事業目的

劇場映画「北の流水（仮称）」製作実現のための支援や協力活動を通じ、四町最大の観光資源である襟裳岬の緑化事業に誇りを持ち、とんがりロード広域連携の中心的観光目玉として映画を活用することで観光誘致を図る。

劇場映画「北の流水（仮称）」

1950年に森林伐採で砂漠化した荒れ地に地元漁師らが木を植え続け、豊かな森と海をよみがえらせた史実で、日本人の先人が残した自分たちの魂、日本人のあるべき姿を未来へ伝え残すため、映画製作の実現に向け取り組んでいる。

■事業内容

- ・映画製作実現に向けた支援・協力活動
- ・四町による個人版ふるさと納税での負担金予算資金調達
- ・映画製作打合せ
- ・映画支援要請活動（東京都、札幌市及び四町）
- ・製作準備活動負担金 250,000 円ほか支出



■事業の成果

広く映画支援要請活動を行うことで、映画製作実現のための支援や協力団体からの理解を得ることで、将来的な知名度向上や全国劇場公開に向けた準備の促進につながった。

■今後（令和6年度以降）の展望

関係機関への支援・協力要請活動や企業版ふるさと納税、個人版ふるさと納税での予算資金調達を継続して行い、2026年の全国劇場公開に向け各般の活動に取り組む。

■収支決算

事業費	事業費の財源内訳			
	企業版ふるさと納税	個人版ふるさと納税	その他	一般財源
1,250,000 円	1,000,000 円			250,000 円

事業への協賛

広尾町まち・ひと・しごとづくり事業に協賛いただいた企業版ふるさと納税の寄附金額を紹介します。事業へのご賛同に心からお礼申し上げます。

[企業版ふるさと納税]
 (順不同・敬称略)

企業名	所在地	寄附金額(円)
東日本富士新道路 株式会社	帯広市	200,000
大昭電気工業 株式会社	帯広市	1,000,000
株式会社 アルムシステム グループ	帯広市	3,000,000
株式会社 北口電器商会	帯広市	1,000,000
ホクレン農業協同組合連合会帯広支所	帯広市	1,000,000
株式会社 さっぽろテレビ塔	札幌市	100,000
株式会社 セコマ	札幌市	希望により非公表
ほか、協賛企業（希望により非公表）	-	

[一般指定寄附]
 (順不同・敬称略)

企業名	所在地	寄附金額(円)
株式会社 ズコーシャ	帯広市	20,000

〒089-2692

北海道広尾郡広尾町西4条7丁目1番地

広尾町役場

企画課企画防災係

電話：01558-2-0184

FAX：01558-2-4933

Mail：k-kikaku@town.hiroo.lg.jp